

# 小幡範雄教授、高尾克樹教授を送る

立命館大学政策科学部長 重 森 臣 広

本年度をもって、小幡範雄先生と高尾克樹先生が定年を迎え退任される。小幡先生と高尾先生はそれぞれ1995年、1996年に立命館大学政策科学部に赴任された。1994年4月に産声をあげた政策科学部が、たとえて言うならば、一人で立ち上がって歩きはじめる、そのような頃であろう。第二期生、第三期生が入学し、学生たちが導入教育から政策科学の「専門科目」を学びはじめ、学習成果をまとめる指導が開始された時期にあたる。政策科学が研究対象とし、教育の素材とする政策課題はつねに多次元的な広がりをもつ。政策科学部の教員は、その学問的な出自が何であれ、領域横断的な視野とさまざまな知見を総合する知性が求められる。小幡先生と高尾先生は、ともに環境政策分野に焦点を据えながら、ビジネス、社会システム構築、マーケット、行動主体の制御といった多次元のかつ重層的な研究に取り組み、その成果をもって政策科学部・政策科学研究科の教育・研究指導の骨格の構築にご尽力いただいた。

小幡先生は広島県のお生まれで、大阪大学工学部・工学研究科を経て、社団法人システム科学研究所主任研究員、神戸大学経済経営研究所助教授を歴任され、この間、1990年に工学博士（大阪大学）を取得されている。ポスト産業社会が直面する資源、エネルギー利用の抜本的な見直しの課題に関わる素材を網羅する先生のご研究の幅の広さには改めて驚かされる。マネジメント、循環型社会システム、規範と情報といった先生の接近法にみられる応用可能性がどれほどのものであったかは、先生が指導された多くの大学院学生の研究成果にも現れている。学部・研究科の運営においても、副学部長・副研究科長をつとめられ、大学協議員として大学運営に貢献された。また、政策科学会会長として、学生の研究活動を支援すると同時に、私たちの研究成果発信の媒体である『政策科学』や *Journal of Policy Science* の発展にも寄与された。

高尾先生は愛知県のお生まれで、東京大学工学部、東京工業大学大学院理工学研究科を経て、東京工業大学助手に就任したのち、1985年から1996年まで国際連合経済専門官としてご活躍された。地球環境問題にまつわるさまざまな争点領域について、マーケットの原理、それに関連する施策と制度の組み合わせによって、人類が直面する資源、エネルギー問題の解決へ向けた処方箋の提示が先生のご研究の中軸にあった。高尾先生のこのようなご研究もまた豊かな発展可能性、応用可能性をもち、数多くの大学院学生を指導された。こうした研究、学生指導にはもう一つの広がりがあったといえる。先生ご自身のご経験、すなわち国際的な場での活躍のご経験は、政策科学部・政策科学研究科はもとより立命館大学の国際化推進の動力そのものであつ

たといえる。

両先生の退職を記念して、ここに両先生ご自身の論文を含むご寄稿を一冊にまとめた本号が刊行されることは、政策科学部・政策科学研究科にとって大きな喜びである。

最後に、教職員・学生を代表して、小幡範雄先生、高尾克樹先生のこれまでのご業績をたたえ、またご苦勞をねぎらい、政策科学部・政策科学研究科の成長と発展にご尽力いただいたことに、改めて感謝の意を表したい。

2018年3月